

シンポジウム7

整形老年病学的脆弱性骨折患者管理のベストプラクティス

日時	2026年9月11日(金) 16:55～18:25
会場	第2会場（2F メインホールA）
座長	佐藤 勝彦（大原総合病院） / 石丸 直人（明石医療センター総合内科）

セッション概要

高齢の脆弱性骨折患者を対象に、内科によるコマネジメント、認知症・せん妄への対応、サルコペニアや低栄養の管理、麻酔科的周術期管理を横断的に取り上げ、多職種連携で早期手術と機能予後改善を実現する実践を示す。

演題プログラム

1-SY7-1 脆弱性骨折の総合内科的管理

友田 義崇（板橋中央総合病院 総合内科）

血算・生化学など標準的検査値を横断的に読む視点とBNP・トロポニンによる心血管リスク評価を示し、早期手術を支えるコマネジメントを提示する。

1-SY7-2 認知症、せん妄、不眠、不穏への対応

伊東 範尚（市立伊丹病院 老年内科）

高齢者を捉える「5Ms」の枠組みと、FLS・認知症ケア・リエゾン等の複数の多職種チームによるBPSDやせん妄、不眠、不穏への対応を紹介する。

1-SY7-3 骨粗鬆症におけるサルコペニア・フレイル・低栄養の管理

矢可部 満隆（東京大学医学部附属病院 老年病科）

サルコペニア・フレイルの概念と診断基準、転倒・骨折との関連を概説し、抵抗運動やタンパク質・ビタミンD補充など実践的な介入を提案する。

1-SY7-4 麻酔科的周術期管理の意義

植木 正明（西脇市立西脇病院）

周術期サージカルホームを参考にした自院の実践として、早期手術のための術前最適化、高齢者に応じた麻酔管理、術後の疼痛・栄養・早期離床を示す。